

【実践事例1 ～寿都町立潮路小学校～】

寿都町立潮路小学校 1年間の研修の流れ

◎ 1年間全体を通して

第1年次

日付	内容	段階
4. 9.	「研究概要」の提案と確定	PLAN
4. 19.	①今年度の方向性の確認・研究内容の確定	
5. 17.	②研究授業に関わること	
5. 30.	☆第1回校内研	
5. 31.	③第1回校内研研究協議	
6. 13.	☆第2回校内研	
6. 14.	④第2回校内研研究協議	
7. 4.	☆第3回校内研	
7. 5.	⑤第3回校内研研究協議	
7. 11.	☆第4回校内研	
7. 12.	⑥第4回校内研研究協議	
夏季休業 : 1学期研究授業のまとめ(各担任作成)		
8. 23.	⑦2学期の方向性と研究実践発表会について	
8. 29.	☆第5回校内研	
8. 30.	⑧第5回校内研研究協議	
9. 12.	☆第6回校内研	
9. 13.	⑨第6回校内研研究協議	
9. 26.	☆第7回校内研	
9. 27.	⑩第7回校内研研究協議	
10. 11.	☆第8回校内研	
10. 12.	⑪第8回校内研研究協議	
11. 1.	⑫現状までの「研究の成果と課題」のまとめ	
11. 8.	⑬授業構想の改善	
11. 15.	⑭実践発表会模擬授業	

1 1 . 2 9 .	⑮実践発表会配布資料の検討	
1 2 . 6 .	⑯実践発表会最終確認	
1 2 . 7 .	☆研究実践発表会	CHECK
冬季休業 : 2学期研究のまとめ(各担任作成)		
1 . 1 7 .	⑰今年度研究のまとめ	ACTION
1 . 2 4 .	⑱特別支援教育研修	
2 . 7 .	⑲今年度研究のまとめ	PLAN
2 . 1 4 .	⑳次年度に向けて	

◎校内研に関わって

今年度潮路小学校では、限られた研修時間を可能な限り「研究協議・事後研」に充てるため、以下の形での校内研を行った。具体的には以下の通りである。

☆通常の校内研

- ・授業日の決定(研修係提案)
- ・授業案作成開始(個人研修)

↓

- ・校内研(全体研修)

↓

- ・研究協議(全体研修)

↓

- ・授業後の課題とまとめ、

改訂授業案の作成(個人研修)

◇このように実践を積み上げていくことで、学校全体の授業改善を図る。→「目指す子ども像」と「各学級の課題」の共通理解を図ることが重要。具体的には、「1年生実践で生じた指導上の課題を6年生実践でどのように解決していくのか」を全ての教職員が考えなくてはならないということ。

◎研究協議に関わって

今年度の研究協議では、ワークショップ型の研究協議に取り組んだ。この形式を取った事による成果と課題について、全体での確認は未だ実施していないが、個人的には以下のように感じている。

- 校種、教科、経験年数等に関わらず、自分がどのような立場であっても、研究に参加できる。
- 時間の目処が立てやすい。
- 協議が深まらない。

☆研究協議の流れ（例）

①授業終了・付箋記入

↓

②順番に付箋を拡大指導案に貼っていく。その際、他の参加者も関連する内容は適宜貼っていく。

↓

③ファシリテーターは課題をグルーピングする。

↓

④課題に対する解決策・改善策を付箋に記入し貼っていく。

↓

⑤後日、それらを研修係は整理し、全体に提示する。

↓

⑥それを受け、授業者は「授業後の成果と課題」をまとめ、「改訂授業案」を作成する。